



平成 29 年度 次世代型図書館づくり計画骨子策定業務

アイディアキャンプ報告書

アカデミック・リソース・ガイド株式会社

アイディアキャンプ報告書

1. 基本情報

平成 28 年度(2016 年度)に行われた「次世代型事業図書館づくりに向けた市民参加ワークショップ事業」の報告書に基づきながら参加者同士が、議論を深化させ、情報を補充していく作業を行うアイディアキャンプの開催を支援しました。

本報告書は、アイディアキャンプでの議論を通じてから得られた意見をまとめ、その意見を明確・詳細な情報として、どのように計画骨子に反映させていくかを示しています。

1.1. 開催日時

平成 29 年(2017 年)

- ・ 8 月 18 日(金)19:00～21:00
- ・ 8 月 19 日(土)13:00～17:00

1.2. 会場

富谷武道館会議室(宮城県黒川郡富谷町一ノ関臈合山 6-8)

1.3. 参加者数

- ・ 8 月 18 日(金)19:00～21:00: 10 名
- ・ 8 月 19 日(土)13:00～15:00 : 15 名



8 月 18 日(金)



8 月 19 日(土)

2. プログラム

両日のプログラムは以下の通りです。アイディアキャンプの前に、参加者には事前に昨年度作成した「富谷市次世代型図書館づくりに向けた市民参加ワークショップ事業報告書」を郵送しました。この報告書のまとめの部分にあたる「3.次世代型図書館づくりに向けて」にある項目に従って、

議論をしていきました。

2.1. 8月18日(金)

時間	内容
19:00～19:05	富谷市長・若生裕俊氏からのご挨拶
19:05～19:15	市民参加ワークショップ事業報告書説明と本日の進め方の説明
19:15～19:35	次世代型図書館の利用者、ひと(職員)
19:35～19:45	休憩
19:45～20:05	ひと(市民)、こと(活動)
20:05～20:15	休憩
20:15～20:35	もの(資料)、ネットワークの形成
20:35～20:45	休憩
20:45～20:55	ラップアップ
20:55～21:00	閉会の挨拶

2.2. 8月19日(土)

時間	内容
13:00～13:05	富谷市長・若生裕俊氏からのご挨拶
13:05～13:15	市民参加ワークショップ事業報告書説明と本日の進め方の説明
13:15～13:35	次世代型図書館の利用者、ひと(職員)
13:35～13:45	休憩
13:45～14:05	ひと(市民)、こと(活動)
14:05～14:15	休憩
14:15～14:35	もの(資料)、ネットワークの形成
14:35～14:45	休憩
14:45～14:55	ラップアップ
14:55～15:00	閉会の挨拶

3. 結果

2日間のアイディアキャンプで出された意見から、計画骨子への反映を検討するべき点をまとめました。

「ワークショップ事業報告書の記述」は、今回の議論の基となった富谷市次世代型図書館づくりに向けた市民参加ワークショップ事業報告書に書かれている文章の抜粋とそのページ番号です。当日は参加者から、報告書の中にある文章が示され、「こうなったらもっと強化される」「こうなったらもっとよくなる」という改善点を意見としていただきました。

「計画骨子に組み込む点」には、参加者からの意見を基に、富谷市次世代型図書館づくり計画骨子への反映を考慮した方がよい点や考え方の方向性を示しています。反映させる内容の最終決定は、今後、実施の可能性や市のプライオリティを考え、判断をしていきます。

「関連した意見」は、その項目についてアイディアキャンプで出た意見を記載しています。

3.1. 次世代型図書館の利用者

3.3.1. 利用者の範囲について

■ ワークショップ事業報告書の記述

富谷市次世代型図書館では、すべての人に利用者カードを発行することを提案します。
(10 ページ)

■ 計画骨子へ組み込む点

図書館を広く公開することで得られるメリットについて議論になりました。アイディアキャンプでの議論を踏まえ、以下の点を計画骨子に組み入れることを検討します。

- 富谷市次世代型図書館では、富谷市在住・在勤・在学者や近隣の自治体の住民に限らず、すべての人に利用者カードを発行する。

■ 関連した意見

【8月18日(金)】

- 富谷市民に限らず、他の市町村の住民にも利用してもらう等、利用可能な範囲をより広くすべきではないか。
- 税負担原則はあるものの、富谷市民も今まで各種施設の相互利用やこれまで近隣自治体の図書館を使ってきたことを考えると、富谷市の新しい図書館も広く公開したほうがいい。
- 地域全体での文化活動のあり方や発信を考えた際、広く公開であるべき。文化活動を通じて、他の自治体の住民との交流が生まれることもある。
- 自治体間の交流の拡大を通じて、富谷市へ関心を高めてもらい、移住定住への発展する可能性が見込まれるため、他の自治体の人にも利用してもらうべき。

【8月19日(土)】

- 本の返却が遅延した場合督促等のコスト管理も課題としてはあるが、市外を含むすべての方々への利用カード発行が理想。

3.2. ひと(職員)

3.2.1 次世代型図書館員の定義について

■ ワークショップ事業報告書の記述

次世代型図書館が活用されるためは、従来の図書館業務とされているレファレンスや紙の資料

の収集・提供等に加えて、日常的に利用されるようになったデジタルの資料の収集・提供や図書館の外にある関係機関とのコミュニケーション能力、自治体の政策立案をサポートするための調査能力等を備えた正規の専任の「次世代型図書館員」が必要です。

(10~11 ページ)

■ 計画骨子へ組み込む点

両日とも、核となる専門職の配置を求める意見がでました。その議論を踏まえ、以下の点を計画骨子に組み入れることを検討します。

- ・ 高い専門性を持ち、富谷市の生涯学習を担う、核となる正規の専任の「次世代型図書館員」の配置を行うこと。

■ 関連した意見

【8月18日(金)】

- ・ 未来に向けて方向性を示せる、生涯学習を担える人材である必要がある。
- ・ 核となる人材の配置をしてもらいたい。
- ・ いつでも専門性の高い職員が勤務している体制が理想。

【8月19日(日)】

- ・ 核となる職員の存在が必要。

3.2.2. レファレンスや図書館の価値を伝えていくコミュニケーション能力について

■ ワークショップ事業報告書の記述

課題を発見・解決したい、よりよい生活を送りたい、学習を続けたいと願う人たちに、適切な資料が届けられるためにも、従来図書館で行われているレファレンスや情報の収集、分類、保存、提供をする能力はもちろん、図書館の外にでて関連する組織、団体、個人と関係性を構築するコミュニケーションやコーディネーション能力、きちんと人が集まる展示やイベントを行う企画力や交渉力が求められます。

(11 ページ)

■ 計画骨子へ組み込む点

図書館が提供するサービスである「レファレンス」等、言葉を聞いただけでは理解しない人も多いことが予想されるため、コミュニケーション能力や広報の能力が不可欠という意見が挙がりました。

それを踏まえて計画骨子には、以下のように、職員が発信するべき内容や必要な能力について追加することを検討します。

- ・ 多くの人に図書館利用に関心を高めてもらうためにも、富谷市の魅力、図書館の存在意義や、一般には聞きなれないレファレンスサービス等のサービスの意義や活用方法を利用者へ発信・伝達し、活用を促す広報の能力も必要となります。

■ 関連した意見

【8月18日(金)】

- ・ コミュニケーション力に長けた人材が必要。
- ・ 富谷市を愛し、富谷市の魅力を内外に発信していく人材が必要。

【8月19日(土)】

- ・ レファレンスサービス等、市民にとっては聞きなれない図書館のサービスがある。このようなサービスを活用してもらうために、その意義と魅力を利用者に伝達する能力が必要。
- ・ 図書館の存在意義が浸透していないと図書館は利用されない。図書館への関心を高めてもらうために、広報等の能力を持ち合わせていることが大切。

3.2.3. 市民との連携について

■ ワークショップ事業報告書の記述

またこの職員が核となり市民との連携を図っていきます。そのために市民とのコミュニケーション能力、調整力が不可欠となります。

(11ページ)

■ 計画骨子へ組み込む点

市民との連携を図るという点において、市民がボランティアとして図書館の運営や活動に参画することで、図書館の職員の業務の負担を和らげるのではないかという意見が出ました。

ワークショップ事業報告書には「市民とのコミュニケーション能力、調整力が不可欠となります」とだけ記載していましたが、市民の参画についてより具体的な事例を挙げる形で計画骨子に組み入れることを検討します。

- ・ 図書館の運営や活動に参画したい市民とのコミュニケーション能力、調整力が不可欠となります。

■ 関連した意見

【8月18日(金)】

- ・ 図書館業務を職員のみに依存するのではなく、市民ボランティアの活用をし、仕事の分担を行うのがよい。

【8月19日(土)】

- ・ 職員に加えてのボランティア活動の促進も考えられる。

3.2.4. 繼続的な能力向上について

■ ワークショップ事業報告書の記述

また専門性を高めるためにも、職員が業務として継続的に研修を受ける機会を提供していくことが求められます。

(11ページ)

■ 計画骨子へ組み込む点

特定の職員のみが職員が研修を受ける機会を得て、能力を伸ばすのではなく、職員のレベルを平準化し、サービスの提供の質が、相談した職員の能力によってばらつきが出ないようにする必要があるとの意見が出ました。

全職員が外部で研修を受講するのは難しいことが予想されます。外部の研修会の受講の機会だけではなく、内部で行う勉強会の開催や職場内訓練を事例として挙げ、以下の点を計画骨子に組み入れることを検討します。

- ・ 専門性を高めるためにも、図書館で勤務する職員が業務として継続的に研修を受ける機会を提供していくことが求められます。
- ・ 外部で研修を受けるだけではなく、外部の研修で学んだことを職員に伝える勉強会の開催や職場内訓練(オン・ザ・ジョブ・トレーニング、OJT)を行います。

■ 関連した意見

【8月19日(土)】

- ・ 職員のレベルの平準化(一定レベル以上の)ための育成体制をつくるべき。相談する職員の能力に差があると、利用者が得られる情報や満足度に差が生まれてしまう。

3.3. ひと(市民)

3.3.1. 市民の図書館への参画

■ ワークショップ事業報告書の記述

基本構想、基本計画、基本設計、実施設計、開館準備、そして開館後の運営とすべての図書館づくりのプロセスに住民に参加をしてもらい、協働・協力・連携の下で進めることで、開館後も住民が運営の主体を担う市民自治による図書館運営を促していきます。

実際に市民参加ワークショップの場でも、図書館ができたらボランティアをしたい、何か貢献でききることがあれば参加したい、ライフステージが変わってもそれに合わせて楽しめる施設なので図書館サポーターとして長く関わり続けていたいという声があつたことを附言しておきます。

(12ページ)

■ 計画骨子へ組み込む点

すでに様々な能力を持った富谷市民が、その能力を生かして図書館の運営に参加できるのではないかという議論になりました。その際、図書館がボランティアの業務内容を提示して募集をかけるのではなく、市民自らが「自分は図書館のために何ができるのか」を考えて、提案し、行動することが重要であるという意見も出ました。

市民が図書館のサポートを継続的に行うために「図書館友の会」(仮)の組織についても意見が出ました。

これらの意見を踏まえて、以下の点を追加して計画骨子に組み入れることを検討します。

- ・ 開館後も住民が運営の主体を担う市民自治による図書館運営を促していきます。図書館が常に市民にボランティアを呼びかけるのではなく、多様かつ多才な市民自ら「自分が図書館に対してできること」を考え、学び、行動していくことが重要です。
- ・ 障害者のために、市民が音訳・音読等のボランティアを行う等、市民が市民を支える活動が図書館で展開される場に図書館はなります。
- ・ 市民が主体となり「図書館友の会」(仮)が組織される可能性があります。その時、図書館はその組織と協働して、図書館の振興を行っていきます。

■ 関連した意見

【8月18日(金)】

- ・ 多様かつ多才な富谷市民がいるので、図書館を利用する市民の活躍の場(人材バンク)になるとよい。
- ・ 障害者のために、市民が音訳・音読等の多様なボランティア活動を行うこともできる。市民が市民を支える活動を図書館で行う。

【8月19日(土)】

- ・ 図書館から市民にできることを伝え、そのスキル等をもつ市民が参加するだけではなく、市民自らが図書館に「自分ができること」を例示する自発的なスタイルもあるとよい。図書館が市民にボランティア機会を提供するという図式ではなく、市民が図書館のために何ができるのかという図式でとらえる意識を市民が持つことも重要。
- ・ 市民が何かをしたいと思ったときに、市民がそれぞれの技能を生かして他の市民を支援する機能があるとよい。
- ・ ボランティアを希望する市民が参画しやすい仕掛け(場づくり・機会づくり)が必要。
- ・ ボランティアを育成する講習等の開催を希望。
- ・ 主体的な市民活動としての友の会のような制度の可能性を探りたい。
- ・ 友の会に入るのはハードルが高いと感じる市民もいる。友の会に組み込まれずに個別に参加できるボランティアの余地も必要。

3.4. こと(活動)

3.4.1. 空間のつくり方について

■ ワークショップ事業報告書の記述

次世代型図書館では「市民の知的創造活動の促進」を中心とした活動を行います。従来図書館で行われている読み聞かせの会、歴史の勉強会、朗読会、健康相談会等、講演会やイベントだけではなく、市民の活動を通じて新たな情報が生み出される場所にしていきます。
(12 ページ)

■ 計画骨子へ組み込む点

活動によって適した環境は異なります。朗読会は静かな環境の方が好ましいかもしれません、おはなし会はにぎわいを生む活動なので音を出してもよい環境が必要です。そのため多様な空間づくりの必要性が意見としてあがりました。

また施設の一部有料化を実施し図書館の活動に還元させる意見も出了しました。

これらの議論を踏まえ、以下の点を計画骨子に組み入れることを検討します。

- ・ 多様な活動や使われ方に適した多様な空間をつくることを考慮します。
- ・ また各種活動のための空間利用や提供するサービスへ課金をし、その収益を図書館運営に還元する仕組みづくりを検討します。

■ 関連した意見

【8月18日(金)】

- ・ 吹奏楽等、富谷市は音楽活動が盛んなので、コンサート等の幅広い活動ができると嬉しい。
- ・ 子どもはどうしても音を出すので少々騒いでもいい空間があると、図書館に行きやすい。
- ・ 多様な活動や使い方・使われ方を保障する多様な空間があるとよい。

【8月19日(土)】

- ・ 各種活動のための空間利用への課金とその収益の図書館運営への還元をするとよいのは。
- ・ 図書館に来られない人への対応としてのボランティアを活用した本の配達や、宅配の有料化も考えられる。ただし障害者や要介護等の人はその限りではない。

3.5. もの(資料)

3.5.1. 前提として市民共有の公共財産であるという意識の徹底を行うことについて

■ ワークショップ事業報告書の記述

資料は本に限りません。「3.4 こと(活動)」で取り上げた「市民による新たな知的創造活動」によって生み出されてくるデジタルの資料も加わることになるでしょう。伝統的な紙の資料だけではなくデジタル資料も含め、市民の生活を支えるために適した情報を収集、分類、保存、提供していきます。

(14 ページ)

■ 計画骨子へ組み込む点

前提条件として、図書館の資料は公共財産であることを利用者が意識することで、大切に使われることが想定される点が挙げられました。

以下の点を計画骨子に組み入れることを検討します。

- ・ 資料は公共財産である認識を市民に伝えていきます。

■ 関連した意見

【8月19日(土)】

- ・ 前提として市民共有の公共財産であるという意識を持ちながら、利用をしていくことが大切。

3.5.2. ものの貸出について

■ ワークショップ事業報告書の記述

世界では本やCD、ビデオ以外の「もの」を資料として保管し、貸出している図書館があります。アメリカ・コロラド州のペイソルト地域図書館では、植物の種を貸出しています。種を借りた人は収穫した後、種を図書館に返却します。次世代型図書館では、従来の資料以外でも市の活性化や市民の生活の向上のために有効な資料を充実させていきます。

(14ページ)

■ 計画骨子へ組み込む点

本やCD、DVDだけではなく、絵画や介護用品等、「もの」の貸出サービスの提供について意見が出ました。たとえば利用者が介護用品を借りて、使い勝手を試すことで、今後どの用品を購入するか検討するのに役立つという声が挙がりました。

他にも具体的な事例がでたので、それらの事例も加えたものを計画骨子に組み入れることを検討します。

- ・ 次世代型図書館にも、子どもたちのための遊び道具や、介護の用品等、従来の資料以外でも市の活性化や市民の生活の向上のために有効なものを充実させ、貸出を行います。

■ 関連した意見

【8月18日(金)】

- ・ 遊び道具や各種用品等、「もの」の貸出もあるとよい。医療コーナーに、介護用の用品も置いて貸出をし、試してもらえるようにする。

3.5.3. 地域資料・郷土資料の充実化について

■ ワークショップ事業報告書の記述

市民による新たな知的創造活動を通じて生まれた資料の受け入れを行い、資料として取り扱っていきます。

近年、その土地に暮らす高齢者、文化人、経営者等のオーラルヒストリーを録音、録画して図書館で閲覧してもらう等、「ひとの経験」も図書館の資料として収集・活用されています。個人で撮影したまちの写真を図書館のウェブサイトに投稿してそれがデジタルアーカイブとして保存される等、個人が資料をつくり、提供するケースも見られます。

富谷市でも、市民が知的創造活動を通じて作られた資料は、富谷市の知の記録であり資源にもなるので、積極的に収集、提供していきます。

(14~15ページ)

■ 計画骨子へ組み込む点

宅地開発される前の様子から現在に至るまでの富谷市の発展史を記録として図書館が残すこと等、図書館が収集・提供するべき郷土資料・地域資料の具体的な事例が挙げられました。また資料を収集の仕方についての意見も出ました。

具体的な事例も加え、以下の点を計画骨子に組み入れることを検討します。

- ・ 富谷市の郷土資料・地域資料を積極的に収集していきます。市民に家に残る資料から図書館に寄贈していいものの提供を呼びかけます。
- ・ 宅地開発される前の様子から現在の富谷市の様子まで、富谷市の発展史を図書館が記録として残していきます。
- ・ まちの様子の撮影はドローン等のテクノロジーも活用していきます。
- ・ マーチングバンドや伝承舞踊等の市民活動を紙だけではなく動画として記録を残していきます。
- ・ 映像・画像の視聴のための環境が必要となります。図書館の中での視聴だけではなく、ウェブサイトにアーカイブのページをつくりそこから見られるようにする方法等、公開の方法も多角的に考えていきます。

■ 関連した意見

【8月18日(金)】

- ・ 富谷市で現在行われている各種の市民活動(例:マーチングバンドの模様のDVD)を支える資料を整える。
- ・ 踊り等の伝承を映像として記録してもらいたい。
- ・ 図書館内で映像・画像資料の活用を考えると、そのための視聴環境・空間・設備が必要である。

【8月19日(土)】

- ・ 個人で撮影した写真も資料として図書館が保存するのはよい活動だと考える。宅地開発される前の様子等、富谷の発展史を図書館が記録として残していくとよい。
- ・ まちの写真等の資料は、市民に提供を呼び掛けるとよい。旧家や各家庭に眠る資料の発掘と保存の作業も、市民協働で図書館をつくる一つの方法だと考える。
- ・ 資料を「紙」に限定せず、ドローン空撮等、テクノロジーを活用し「いま」を記録していくとよい。

3.5.4. 置かれている資料を生かすための取り組みについて

■ ワークショップ事業報告書の記述

様々な背景、課題、未来への目標を持つ市民のニーズに合う資料が図書館にあることが求められます。実用書や小説だけではなく、広義に「暮らしを支える資料」は何かを考え富谷市の経済活動を支え観光客を増加させるための専門書も考慮する必要があります。

(15ページ)

■ 計画骨子へ組み込む点

アイディアキャンプでは暮らしを支え豊かにするための資料の充実が議論になりました。

また、ただ資料を充実させても、その資料の存在を市民が知らないと活用されないことの指摘もありました。そのためには、資料を紹介する人の配置や図書館の中に展示コーナーをつくる取り組み等が必要との意見が出ました。

具体的な事例も加え、以下の点を計画骨子に組み入れることを検討します。

- ・ 広義に「暮らしを支える資料」は何かを考え、雑誌、実用書や小説だけではなく、富谷市の経済活動を支え観光客を増加させるための専門書を揃えていきます。
- ・ 資料をきちんと紹介し、利用者の関心を引き出すコーナーをつくる職員を配置します。

■ 関連した意見

【8月18日(金)】

- ・ それなりの数の雑誌の揃えがあると嬉しい。
- ・ 医療や園芸等、生活に直結したテーマ・コーナーの充実をしてもらいたい。
- ・ コーナーをきちんと作れる図書館の職員が必要。そのテーマに関心がない市民でも、思わずそのコーナーにある本を目にして関心を持つ可能性もある。
- ・ 楽譜等の音楽活動に役立つ資料の充実をしてもらえると嬉しい。

3.6. ネットワークの形成

3.6.1. ネットワークを組むべき機関について

■ ワークショップ事業報告書の記述

図書館単体で事業を行うのではなく、公民館に設置されている学校支援地域本部、公民館図書室、学校、家庭、地域との連携を構築します。宮城県立富谷高等学校は市ではなく県の管轄ですが、富谷市にとって重要な教育拠点であることには違いありません。このように組織の枠を越えた連携を構築していきます。

(15 ページ)

■ 計画骨子へ組み込む点

ネットワーク先として具体的な施設・法人名が挙げされました。

ネットワーク先の具体的な事例も加え、以下の点を計画骨子に組み入れることを検討します。

- ・ 町内会館
- ・ 子育て支援センター「とみここ」
- ・ 病院や地元の社会福祉施設
- ・ 地元の企業
- ・ 市民サークル

■ 関連した意見

【8月18日(金)】

- ・ 図書館ができても遠いと来られない人もいるであろう。アクセス性等の観点から公民館図書室や学校図書館を今まで以上に活用することで、新図書館がより生きる。
- ・ 医療情報やビジネス支援を図書館が行うためにも、社会福祉施設や病院、企業等との幅広い連携をするとよい。

【8月19日(土)】

- ・ 各町内会館との連携し、図書館の情報を掲示して利用を呼び掛ける。
- ・ 保護者に図書館について理解してもらうためには、子育て支援センター「とみここ」との連携は重要。
- ・ 市民の各種サークルが富谷市にはある。これからのサークル活動や市民活動との連携をするとよい。
- ・ 子育て中の人人が富谷市は多いので、小児科を中心に医療機関との連携をして、子どもと健康についての情報を充実させ、図書館で医療相談ができるとよい。

3.6.2. ネットワークを活用した図書館へのアクセスの保障について

■ ワークショップ事業報告書の記述

図書館システムを統一することで図書館に来られない人も近くの公民館を引き続き活用しながらも読みたい本の予約や受け取りができるようにします。また教育施設への団体貸出や移動図書館サービスを行うことで、子どもたちの豊かな読書習慣づくりの支援を行います。

(16 ページ)

■ 計画骨子へ組み込む点

健康上の理由で図書館に来られない人たちへ図書館のアクセスをどのように保障するのか議論になりました。

議論を踏まえ、以下の点を計画骨子に組み入れることを検討します。

- ・ アクセス性等の観点から各地域にある公民館の図書室は引き続き活用していきます。
- ・ 健康上の理由で外に出られない人たちのために配達等、アクセスを保障する手段を構築します。

■ 関連した意見

【8月18日(金)】

- ・ 健康上の理由等で図書館に来られない市民もいる。アクセスを保障する手段(送迎・出張・配達)を考えるべき。

以上